

## 人権学習展開例〔第3学年〕

1 主 題 トラブルの解決方法について考える

2 教材名

# 26 どんな気持ちかな



3 主題・教材について

子どもたちは、自分の気持ちを優先させ、友だちの気持ちを考えないで発言したり、相手に対する思い込みで判断したりすることがある。そして、これらのことがもとになり、トラブルが生じることもある。

この教材では、人の気持ちを考えることの大切さを学ばせたい。また、友だちをドッジボールに入れなかった理由を考えることを通して、思い込みや決めつけによる偏見が、トラブル（なかまはずれ）を生み出す原因になることを学ばせたい。

（関連領域：道徳、特別活動）

4 ねらい

- ・相手の気持ちを想像しようとする態度を育む。
- ・思い込みによる偏見がトラブルを生み出す原因になることを理解する。

5 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	・日頃の遊びで楽しかったことや困ったことを出し合う。	・具体的な場면을例示しながら、思い出させる。	日記など
展	・教材「どんな気持ちかな」の前半（80～81ページ）を読む。		ワークシート
	二人をドッジボールに入れようとしていない理由を考えよう。		
	・ヒロコさんやユカリさんが、メグミさんとミツオさんをドッジボールに入れることをためらう理由を考え、発表し合う。	・文中の言葉だけでなく、挿絵の表情も参考にさせる。 ・自分の経験も踏まえ、考えさせる。 ・タカシさんとの力関係や、日常のメグミさんとミツオさんの言動などに原因があったのではないかという意見が予想される。	
	ドッジボールに入れてもらえなかった二人の気持ちを考えよう。		
開	・メグミさんとミツオさんの気持ちを考え、発表し合う。	・文中の言葉や挿絵の表情を参考にさせる。	
	・教材の後半（82～83ページ）を読む。		
	二人が行ってしまったあとのユカリさんの気持ちを考えよう。		
まとめ	・ユカリさんに涙が出てきた理由を考え、発表し合う。	・二人をドッジボールに入れることができなかった後悔の気持ちがあることに気づかせる。	
	・ユカリさんの涙が止まらなくなった理由を考え、発表し合う。	・周りの子どもたちに、二人に対する思い込みや偏見があることに気づかせる。	
まとめ	自分たちの生活を見つめ直そう。		
	・自分たちの生活を見つめ直す。	・自分たちの生活の中で、同様の思い込みや偏見がなかったか、見つめ直させる。	

